

科目名		撮影				
担当教員		鈴木 隆裕		実務授業の有無	○	
対象学科		テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数	51時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 撮影現場での事前準備が正確になおかつ迅速に出来るようになる。 2. 撮影機材の安全な取り扱い、メンテナンスが出来るようになる。 3. 撮影機材の特性をいかした撮影が出来るようになる。				
学習目標 (到達目標)		テレビの中継、ロケ現場に出ても、自発的に動ける人材を育てる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	撮影基礎Ⅰ			撮影機材の基礎準備・撤収方法Ⅰ		
2	撮影基礎Ⅱ			撮影機材の基礎準備・撤収方法Ⅱ		
3	撮影基礎Ⅲ			撮影ケーブルの種類、取り扱い方法Ⅰ		
4	撮影基礎Ⅳ			撮影ケーブルの種類、取り扱い方法Ⅱ		
5	撮影基礎Ⅴ			撮影機材の種類・取り扱い方法Ⅰ		
6	撮影基礎Ⅵ			撮影機材の種類・取り扱い方法Ⅱ		
7	撮影基礎Ⅶ			撮影機材のメンテナンス方法Ⅰ		
8	撮影基礎Ⅷ			撮影機材のメンテナンス方法Ⅱ		
9	撮影実習Ⅰ			状況に応じた撮影機材の選定方法		
10	撮影実習Ⅱ			状況に応じた撮影機材の選定方法および撮影機材の設置方法		
11	撮影実習Ⅲ			画角の考え方、撮影方法Ⅰ		
12	撮影実習Ⅳ			画角の考え方、撮影方法Ⅱ		
13	撮影実習Ⅴ			画角の考え方、撮影方法Ⅲ		
14	短編映像制作実習Ⅰ			学生の企画を元にした短編映像制作		
15	短編映像制作実習Ⅱ			学生の企画を元にした短編映像制作		
16	短編映像制作実習Ⅲ			学生の企画を元にした短編映像制作		
17	短編映像制作実習Ⅳ			短編映像制作（プレビュー）		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
短編映像制作35%、中編映像制作35%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				短編映像制作で学んだ知識、技術を出し切り全員で最後まで作り上げる。全ての実習項目に出席し、諦めず責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴		新潟にて映像制作に30年以上携わっている。				

科目名		撮影				
担当教員		鈴木 隆裕		実務授業の有無	○	
対象学科		テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数	51時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 撮影現場での事前準備が正確になおかつ迅速に出来るようになる。 2. 撮影機材の安全な取り扱い、メンテナンスが出来るようになる。 3. 撮影機材の特性をいかした撮影が出来るようになる。				
学習目標 (到達目標)		どの撮影現場に出ても、自発的に動ける人材を育てる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	撮影基礎Ⅰ			撮影機材の基礎準備・撤収方法		
2	撮影基礎Ⅱ			撮影ケーブルの種類、取り扱い方法		
3	撮影基礎Ⅲ			撮影機材の種類・取り扱い方法		
4	撮影基礎Ⅳ			撮影機材のメンテナンス方法		
5	撮影実習Ⅰ			状況に応じた撮影機材の選定方法		
6	撮影実習Ⅱ			状況に応じた撮影機材の選定方法および撮影機材の設置方法		
7	撮影実習Ⅲ			画角の考え方、撮影方法		
8	短編映像制作実習Ⅰ			短編映像制作Ⅰ		
9	短編映像制作実習Ⅱ			短編映像制作Ⅱ		
10	短編映像制作実習Ⅲ			短編映像制作Ⅲ		
11	短編映像制作実習Ⅳ			短編映像制作（プレビュー）		
12	中編映像制作Ⅰ			中編映像制作Ⅰ		
13	中編映像制作Ⅱ			中編映像制作Ⅱ		
14	中編映像制作Ⅲ			中編映像制作Ⅲ		
15	中編映像制作Ⅳ			中編映像制作Ⅳ		
16	中編映像制作Ⅴ			中編映像制作Ⅴ		
17	中編映像制作Ⅵ			中編映像制作（プレビュー）		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
短編映像制作35%、中編映像制作35%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				短編映像制作および、中編映像制作で映像制作で学んだ知識、技術を出し切り全員で最後まで作り上げる。全ての実習項目に出席し、諦めず責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴		新潟にて映像制作に30年以上携わっている。				

科目名		映像編集実習				
担当教員		榎本 昭紀		実務授業の有無	○	
対象学科		テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	51時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. Macintoshの操作方法を知る 2. Final Cut Proの操作方法を学ぶ 3. Final Cut Proで映像制作を行う				
学習目標 (到達目標)		ノンリニア編集の基礎を踏まえ、タイトル、短編映像制作を通してFinal Cut Proの使い方を学習する。他の技術パートとの関連性を学び、編集の重要性を意識する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	Macintosh操作基礎			Macintoshの操作方法、アカウントを作成してみる		
2	ノンリニア編集基礎Ⅰ			Final Cut Proの基本的な操作方法を学ぶ（各機能、画面構成、データ管理等）		
3	ノンリニア編集基礎Ⅱ			Final Cut Proの基本的な操作方法を学ぶ（各機能、画面構成、データ管理等）		
4	ノンリニア編集基礎Ⅲ			Final Cut Proの基本的な操作方法を学ぶ（各機能、画面構成、データ管理等）		
5	編集基礎Ⅰ			カット、シーンの考え方を学ぶ		
6	編集基礎Ⅱ			カット、シーンの繋ぎ方を学ぶ		
7	編集基礎Ⅲ			Final Cut Proを使用した音の整音方法を学ぶ		
8	編集基礎Ⅳ			モーションを使用したタイトルロゴを作成してみる		
9	編集基礎Ⅴ			モーションを使用したタイトルロゴを作成してみる		
10	編集実践Ⅰ			短編映像制作（撮影）		
11	編集実践Ⅱ			短編映像制作（撮影）		
12	編集実践Ⅲ			短編映像制作（編集）		
13	編集実践Ⅳ			短編映像制作（編集）		
14	編集実践Ⅴ			短編映像制作（編集）		
15	編集実践Ⅵ			短編映像制作（オールラッシュ）		
16	編集実践Ⅶ			仕上げ：編集データの書出し、カット・リスト作成、コンフォーム、グレーディング		
17	総評			上映会を行い修正点の洗い出し		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
実技試験35%、映像制作35%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、短編映像作品を完成させ提出すること。		
実務経験教員の経歴		農水協 産業用ドローンの指導員、ドローンパイロット				

科目名	照明（基礎）演習				
担当教員	小峯 睦男		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	51時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 照明機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2. 基本的な照明設計の考え方を学ぶ 3. 様々なシチュエーションの照明を作る				
学習目標 （到達目標）	監督の意図した世界を表現出来る照明スタッフを育成する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	図解・実践 新版 映像ライティング				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	照明基礎Ⅰ		照明機材の種類、名前を学習する		
2	照明基礎Ⅱ		照明機材の種類、名前を学習する		
3	照明基礎Ⅲ		電圧の計算方法を学ぶ		
4	照明基礎Ⅳ		基本的な照明設計の考え方を学ぶ		
5	照明基礎実践Ⅰ		基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる		
6	照明基礎実践Ⅱ		基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる		
7	照明基礎実践Ⅲ		基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる		
8	映像照明基礎実践Ⅰ		朝の照明を作成してみる		
9	映像照明基礎実践Ⅱ		射し込みを表現してみる		
10	照明基礎Ⅴ		様々な場所の光を数値化してみる		
11	映像照明基礎実践Ⅲ		夕焼けを作成してみる		
12	映像照明基礎実践Ⅳ		夜を表現してみる		
13	照明実践Ⅰ		学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
14	照明実践Ⅱ		学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
15	照明実践Ⅲ		学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
16	照明実践Ⅳ		学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
17	照明実践Ⅴ		学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。		
実務経験教員の経歴	「仮面ライダーシリーズ」等のCM制作現場を中心とする照明技師				

②

科目名	照明（基礎）演習				
担当教員	小峯 睦男		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	51時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 照明機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2. 基本的な照明設計の考え方を学ぶ 3. 様々なシチュエーションの照明を作る				
学習目標 （到達目標）	監督の意図した世界を表現出来る照明スタッフを育成する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	図解・実践 新版 映像ライティング				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	照明基礎Ⅰ		照明機材の種類、名前を学習する		
2	照明基礎Ⅱ		照明機材の種類、名前を学習する		
3	照明基礎Ⅲ		電圧の計算方法を学ぶ		
4	照明基礎Ⅳ		基本的な照明設計の考え方を学ぶ		
5	照明基礎実践Ⅰ		基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる		
6	照明基礎実践Ⅱ		基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる		
7	照明基礎実践Ⅲ		基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる		
8	映像照明基礎実践Ⅰ		朝の照明を作成してみる		
9	映像照明基礎実践Ⅱ		射し込みを表現してみる		
10	照明基礎Ⅴ		様々な場所の光を数値化してみる		
11	映像照明基礎実践Ⅲ		夕焼けを作成してみる		
12	映像照明基礎実践Ⅳ		夜を表現してみる		
13	照明実践Ⅰ		学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
14	照明実践Ⅱ		学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
15	照明実践Ⅲ		学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
16	照明実践Ⅳ		学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
17	照明実践Ⅴ		学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。		
実務経験教員の経歴	「仮面ライダーシリーズ」等のCM制作現場を中心とする照明技師				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	映画・映像制作				
担当教員	井上 朗子		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. シナリオ制作を行う 2. 各授業で学んだ技術を総合的に使用してみる 3. グループワークで1つの映像作品として完成させる				
学習目標 (到達目標)	撮影・照明・編集・企画の授業の関連性を学生に持たせる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	シナリオ制作Ⅰ		シナリオの作り方を学ぶ		
2	映画・映像制作基礎知識Ⅰ		撮影・照明・録音・制作・演出・美術等各部署の役割を学ぶ		
3	シナリオ制作Ⅱ		各個人、個人でシナリオの作成を行う		
4	シナリオ制作Ⅲ		各個人、個人でシナリオの作成を行う		
5	シナリオ制作Ⅳ		シナリオチェック、ダメ出し		
6	シナリオ制作Ⅴ		各個人、個人でシナリオの作成を行う		
7	シナリオ制作Ⅵ		シナリオ決定稿提出		
8	映画・映像制作基礎知識Ⅱ		ロケハンの注意点、考え方		
9	映画・映像制作基礎知識Ⅲ		メイク・美術の考え方		
10	制作実習Ⅰ		撮影場所、キャスト、予算等を決める		
11	制作実習Ⅱ		スケジュール、撮影場所、キャスト、予算等の調整、交渉、許可取りを行う		
12	制作実習Ⅲ		カメラテスト・衣装合わせ・小道具・リハーサル等準備		
13	撮影実習Ⅰ		撮影		
14	撮影実習Ⅱ		撮影		
15	編集実習Ⅰ		撮影		
16	編集実習Ⅱ		取り込み方法・仕上げ方法講義		
17	編集実習Ⅲ		編集したものを納品出来る形態にする。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
シナリオ提出70%、出席率30%			一人、一作品必ずシナリオを提出する事。コンペで通らなくても、最後まで映像作品を完成させる事。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	元にいがた映画塾代表、新潟で20年以上映画監督としても活躍している				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		映画・映像制作				
担当教員		井上 朗子		実務授業の有無	○	
対象学科		テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	51時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. シナリオ制作を行う 2. 各授業で学んだ技術を総合的に使用してみる 3. グループワークで1つの映像作品として完成させる				
学習目標 (到達目標)		撮影・照明・編集・企画の授業の関連性を学生に持たせる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	シナリオ制作Ⅰ			シナリオの作り方を学ぶ		
2	映画・映像制作基礎知識Ⅰ			撮影・照明・録音・制作・演出・美術等各部署の役割を学ぶ		
3	シナリオ制作Ⅱ			各個人、個人でシナリオの作成を行う		
4	シナリオ制作Ⅲ			各個人、個人でシナリオの作成を行う		
5	シナリオ制作Ⅳ			シナリオチェック、ダメ出し		
6	シナリオ制作Ⅴ			各個人、個人でシナリオの作成を行う		
7	シナリオ制作Ⅵ			シナリオ決定稿提出		
8	映画・映像制作基礎知識Ⅱ			ロケハンの注意点、考え方		
9	映画・映像制作基礎知識Ⅲ			メイク・美術の考え方		
10	制作実習Ⅰ			撮影場所、キャスト、予算等を決める		
11	制作実習Ⅱ			スケジュール、撮影場所、キャスト、予算等の調整、交渉、許可取りを行う		
12	制作実習Ⅲ			カメラテスト・衣装合わせ・小道具・リハーサル等準備		
13	撮影実習Ⅰ			撮影		
14	撮影実習Ⅱ			撮影		
15	編集実習Ⅰ			撮影		
16	編集実習Ⅱ			取り込み方法・仕上げ方法講義		
17	編集実習Ⅲ			編集したものを納品出来る形態にする。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
シナリオ提出70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				一人、一作品必ずシナリオを提出する事。コンペで通らなくても、最後まで映像作品を完成させる事。		
実務経験教員の経歴		元にいがた映画塾代表、新潟で20年以上映画監督としても活躍している				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		PhotoShop				
担当教員		広川 一義		実務授業の有無	×	
対象学科		テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数	34時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. Photoshopの基本的な使用方法 2. Photoshopを使用した画像加工、タイトルロゴ作成 3. Photoshopを使用したポスター制作				
学習目標 (到達目標)		Photoshopを使用し、番組テロップ、映画ポスターの作成が出来る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	Adobe Photoshop とは			Adobe Photoshopの機能概要		
2	Photoshop基本操作Ⅰ			Adobe Photoshopの起動方法、ファイルの保存方法		
3	Photoshop基本操作Ⅱ			Photoshopインターフェイスを知る、画面表示と色の選択方法を知る		
4	Photoshop基本操作Ⅲ			Photoshopの環境設定を学ぶ、ツールバーの機能を学ぶ		
5	Photoshop基本操作Ⅳ			ツールバーの機能を学ぶ（選択ツール）		
6	Photoshop基本操作Ⅴ			ツールバーの機能を学ぶ（マスクモード、アルファチャンネル）		
7	Photoshop基本操作Ⅵ			ツールバーの機能を学ぶ（画像解像度とサイズ変更）		
8	Photoshop基本操作Ⅶ			ツールバーの機能を学ぶ（コピー＆ペースト、拡大、縮小等）		
9	Photoshop基本操作Ⅷ			ツールバーの機能を学ぶ（カラーモードの変更）		
10	Photoshop基本操作Ⅸ			ツールバーの機能を学ぶ（ペイント機能、レタッチ機能）		
11	Photoshop基本操作Ⅹ			ツールバーの機能を学ぶ（レイヤー操作、パスとシェイプ）		
12	Photoshop基本操作Ⅺ			ツールバーの機能を学ぶ（テキストデザイン、文字の加工、各種フィルタ）		
13	Photoshop実習Ⅰ			フォトレタッチ		
14	Photoshop実習Ⅱ			フォトレタッチ		
15	Photoshop実習Ⅲ			ロゴデザイン		
16	Photoshop実習Ⅳ			フォトコラージュ		
17	Photoshop実習Ⅴ			フォトコラージュ		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、実習課題を完成させ提出すること。		
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

②

科目名	シナリオ				
担当教員	梨本 倫則		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. シナリオの基本的な書き方を学ぶ 2. 物語の幅を広げる 3. 人間に対しての興味、深く掘り下げる習慣をつける。				
学習目標 (到達目標)	シナリオの型を学習し、ストーリーやプロットを学生自身で考えられるようにする。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	シナリオ基礎Ⅰ		シナリオとはどういうものかを、映画の脚本を読んで研究する		
2	シナリオ基礎Ⅱ		映画を観ながら、脚本の書式を学ぶ。		
3	映画シナリオ研究Ⅰ		テーマに沿った短いシナリオを書いてみる。		
4	映画シナリオ研究Ⅱ		書いた作品を見直し、どういう物語なのか、何を表現したいのかを発表する。		
5	映画シナリオ研究Ⅲ		プロットを基に構成を考えてみる		
6	シナリオ実習Ⅰ		物語の構成、時代背景、登場人物を考える		
7	シナリオ実習Ⅱ		シナリオを制作してみる		
8	シナリオ実習Ⅲ		シナリオを制作してみる		
9	シナリオ実習Ⅳ		シナリオを制作してみる		
10	シナリオ実習Ⅴ		シナリオを制作してみる		
11	シナリオ発表		各自、シナリオ内容を発表し、学生同士でブラッシュアップを行ってみる。		
12	シナリオ演習Ⅰ		実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。		
13	シナリオ演習Ⅱ		実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。		
14	シナリオ演習Ⅲ		実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。		
15	シナリオ演習Ⅳ		実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。		
16	シナリオ演習Ⅴ		実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。		
17	シナリオ演習Ⅵ		修了・卒業制作に向けての準備を行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
シナリオ提出70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			ただシナリオを書くだけでなく、キチンと取材、資料集めを行う。 最終的に制作したシナリオで修了・卒業制作を行わせる。全ての実習項目に出席し、かつ全ての課題を提出すること		
実務経験教員の経歴	国際的に活躍する映画監督／映像作家／写真家、日本映画監督協会員				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	シナリオ				
担当教員	梨本 倫則		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. シナリオの基本的な書き方を学ぶ 2. 物語の幅を広げる 3. 人間に対しての興味、深く掘り下げる習慣をつける。				
学習目標 (到達目標)	中編・長編制作オリジナルシナリオを完成させる。原稿用紙200枚程度（おおよそ100分）の長さのオリジナルシナリオを完成させる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	シナリオ基礎Ⅰ		基本的なシナリオの書き方を学ぶ		
2	シナリオ基礎Ⅱ		基本的なシナリオの書き方を学ぶ		
3	映画シナリオ研究Ⅰ		映画を観ながら、カット毎の意味を深く掘り下げる		
4	映画シナリオ研究Ⅱ		映画を観ながら、カット毎の意味を深く掘り下げる		
5	映画シナリオ研究Ⅲ		映画を観ながら、カット毎の意味を深く掘り下げる		
6	シナリオ実習Ⅰ		自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。		
7	シナリオ実習Ⅱ		自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。		
8	シナリオ実習Ⅲ		自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。		
9	シナリオ実習Ⅳ		自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。		
10	シナリオ実習Ⅴ		自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。		
11	シナリオ発表		各自、シナリオ内容を発表し、学生同士でブラッシュアップを行ってみる。		
12	シナリオ演習Ⅰ		実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。		
13	シナリオ演習Ⅱ		実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。		
14	シナリオ演習Ⅲ		実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。		
15	シナリオ演習Ⅳ		実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。		
16	シナリオ演習Ⅴ		実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。		
17	シナリオ演習Ⅵ		修了・卒業制作に向けての準備を行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
シナリオ提出70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			ただシナリオを書くだけでなく、キチンと取材、資料集めを行う。 最終的に制作したシナリオで修了・卒業制作を行わせる。全ての実習項目に出席し、かつ全ての課題を提出すること		
実務経験教員の経歴		国際的に活躍する映画監督／映像作家／写真家、日本映画監督協会員			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	コミュニケーション				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	×	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	17時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 聞く・話すを円滑に行う知識の習得 2. 敬語（丁寧語・謙譲語・尊敬語）を理解する 3. 場に応じた正しい対応力を社会人の仕事の例を使い理解する。				
学習目標 （到達目標）	社会人に向けてのコミュニケーション能力の必要性を理解し、仕事などの場で、人間関係を構築出来る知識を得る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	参考書「サーティファイ主催 コミュニケーション能力検定初級」（問題集合む）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	コミュニケーションとは？		P2 コミュニケーションの必要性を考える		
2	聞く力		P6～P9 目的に即して聞く		
3	聞く力		P10～P14 傾聴・質問する		
4	話す力		P15～P17 目的を意識する		
5	話す力		P18～P22 話を組み立てる		
6	話す力		P23～P29 言葉を選び抜く		
7	話す力		P30～P35 表現・伝達する		
8	実践基礎 1		P36～P39 来客応対		
9	実践基礎 2		P40～P43 電話応対		
10	実践基礎 3		P44～P48 アポイントメント・訪問・挨拶		
11	実践基礎 4		P49～P54 情報共有の重要性		
12	実践基礎 5		P55～P59 チーム・コミュニケーション		
13	実践応用 1		P60～P65 接客・営業		
14	実践応用 2		P66～P71 クレーム対応		
15	実践応用 3		P72～P77 会議・取材・ヒヤリング		
16	実践応用 4		P78～P83 面接		
17	問題演習		P84～P89 模擬問題		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			授業では、教科書にない事例も使います。また、特に必要と感じたコミュニケーションの話も交えながら進めて行くことで、より身近なこととして必要性を感じながら履修してください。		
実務経験教員の経歴		コミュニケーション検定授業歴15年の教員			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		Word/Excel検定				
担当教員		荒川 美和		実務授業の有無	×	
対象学科		テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数	54時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. パソコン操作の基本を学ぶ。 2. 編集機能、罫線機能、図形機能を中心にWordの基本操作を習得する。 3. 前期はテキストを中心に基礎を学び、後期は問題集を繰り返し解き認定試験合格を目指す。				
学習目標 (到達目標)		Word文書処理技能認定試験 3 級合格を目標とする。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		ウィネット Word2010クイックマスター(基本編) サーティファイ Word文書処理技能認定試験 3 級問題集(2010対応)				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	Wordの基本			Wordの起動・画面構成、ヘルプの使い方既存の文書を開く、画面の操作・表示モード、Wordの終了 P2~22		
2	文字の入力と編集の基本操作			新規文書の作成、日本語入力システム、文字の入力と変換、単語の登録、文書の保存、文字の選択、文字列の編集とコピー・移動 P24~52		
3	文書の編集			ページ・文字の書式設定、文字幅と文字間隔の設定、文字列の配置、字下げと行間の設定、禁則処理、罫線と網かけ P54~84		
4	文書の印刷			改ページの挿入、ヘッダーとフッターの設定、印刷イメージの確認、印刷の実行 P86~98		
5	文書の作成			入力フォーマット、段落番号の書式設定、箇条書きの設定、タブ、インデント、クリックアンドタイプ、ビジネス文書の作成例 P102~132		
6	表を使った文書の作成			表の作成、表の選択方法、表の編集、表の装飾、文字列から表を作成する P137~165		
7	図形や画像を使った文書の作成			図形の作成、図形の編集、画像の挿入、横書きテキストボックスの挿入、ワードアートの挿入 P171~208		
8	総合学習問題			総合学習問題 P210~215		
9	試験対策			練習問題 1 ～ 2 問題集P2~16		
10	試験対策			練習問題 3 ～ 4 問題集P17~29		
11	試験対策			練習問題 5 ～6 問題集P30~44		
12	試験対策			練習問題 7 ～ 8 問題集P45~59		
13	試験対策			模擬問題 1 問題集P76~83		
14	試験対策			模擬問題 2 問題集P84~91		
15	試験対策			模擬問題 3 問題集P92~99		
16	試験対策			模擬問題 4 問題集P100~106		
17	試験対策			模擬問題 5 問題集P107~113		
18	試験対策			模擬問題 6 問題集P114~121		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト20%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。		
実務経験教員の経歴						

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		Word/Excel検定				
担当教員		荒川 美和		実務授業の有無	×	
対象学科		テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数	54時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. これまで学んだパソコン操作の復習をしながら授業を進めていく。 2. ワークシートの作成、グラフ、データベース機能を中心に基礎的なExcel活用技術を習得する。 3. 前期はテキストを中心に基礎を学び、後期は問題集を繰り返し解き認定試験合格を目指す。				
学習目標 (到達目標)		Excel表計算処理技能認定試験 3 級合格を目標とする。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		ウィネット Excel2010クイックマスター(基本編) サーティファイ Excel表計算処理技能認定試験 3 級問題集(2010対応)				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	Excelの基本			Excelの起動・画面構成、ヘルプの使い方、既存ブックを開く、画面の操作、セルの選択、Excelの終了 P2~22		
2	データの編集			新規ブックの作成、データの入力、数式の入力、データの移動とコピー、ブックの保存 P24~56		
3	表の編集			罫線の設定、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除 P60~82		
4	ブックの印刷			表示モードの切り替え、ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の設定 P84~100		
5	グラフと図形の作成			グラフの作成、図形の作成 P104~132		
6	ブックの利用と管理			ワークシートの管理、ウィンドウの操作 P136~147		
7	関数			統計関数、数学/三角関数、論理関数、日付関数 P152~182		
8	データベース機能			リストの作成、並べ替え、条件にあったデータの抽出、小計の挿入 P184~202		
9	総合学習問題			総合学習問題 P204~207		
10	試験対策			練習問題 1 ～ 2 問題集P2~11		
11	試験対策			練習問題 3 ～ 4 問題集P12~21		
12	試験対策			練習問題 5 ～ 6 問題集P22~32		
13	試験対策			練習問題 7 ～ 8 問題集P33~41		
14	試験対策			模擬問題 1 問題集P54~58		
15	試験対策			模擬問題 2 問題集P59~62		
16	試験対策			模擬問題 3 問題集P63~67		
17	試験対策			模擬問題 4 問題集P68~72		
18	試験対策			模擬問題 5 問題集P73~77		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト20%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。		
実務経験教員の経歴						

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	卒業進級制作実習				
担当教員	広川一義		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	120時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 20日×6コマ 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	全期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画書立案・協議Ⅰ		学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
2	企画書立案・協議Ⅱ		学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
3	企画書立案・協議Ⅲ		学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
4	企画書立案・協議Ⅳ		学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
5	シナリオ制作・修正Ⅰ		シナリオ制作・チェック・修正		
6	シナリオ制作・修正Ⅱ		シナリオ制作・チェック・修正		
7	シナリオ制作・修正Ⅲ		シナリオ制作・チェック・修正		
8	シナリオ制作・修正Ⅳ		シナリオ制作・チェック・修正		
9	シナリオ制作・修正Ⅴ		シナリオ制作・チェック・修正		
10	学内プレゼン・班編成		シナリオ・企画書を基にしたプレゼンおよび班分け		
11	制作準備Ⅰ		撮影・スケジュール・許可取り		
12	制作準備Ⅱ		撮影・スケジュール・許可取り		
13	制作準備Ⅲ		撮影・スケジュール・許可取り		
14	制作実践Ⅰ		撮影・編集・MA		
15	制作実践Ⅱ		撮影・編集・MA		
16	制作実践Ⅲ		撮影・編集・MA		
17	制作実践Ⅳ		撮影・編集・MA		
18	編集チェック・修正		撮影・編集・MAのチェックおよび、修正		
19	最終仕上げ		撮影・編集・MA 最終的な仕上げ		
20	作品上映会		講師および、外部ゲストを招いての講評会		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			・進級制作としての映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。 ・完成した作品を上映し、内部だけでなく外部評価を受ける事。		
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	卒業進級制作実習				
担当教員	広川一義		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	120時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 20日×6コマ 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	全期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画書立案・協議Ⅰ		学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
2	企画書立案・協議Ⅱ		学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
3	企画書立案・協議Ⅲ		学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
4	企画書立案・協議Ⅳ		学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
5	シナリオ制作・修正Ⅰ		シナリオ制作・チェック・修正		
6	シナリオ制作・修正Ⅱ		シナリオ制作・チェック・修正		
7	シナリオ制作・修正Ⅲ		シナリオ制作・チェック・修正		
8	シナリオ制作・修正Ⅳ		シナリオ制作・チェック・修正		
9	シナリオ制作・修正Ⅴ		シナリオ制作・チェック・修正		
10	学内プレゼン・班編成		シナリオ・企画書を基にしたプレゼンおよび班分け		
11	制作準備Ⅰ		撮影・スケジュール・許可取り		
12	制作準備Ⅱ		撮影・スケジュール・許可取り		
13	制作準備Ⅲ		撮影・スケジュール・許可取り		
14	制作実践Ⅰ		撮影・編集・MA		
15	制作実践Ⅱ		撮影・編集・MA		
16	制作実践Ⅲ		撮影・編集・MA		
17	制作実践Ⅳ		撮影・編集・MA		
18	編集チェック・修正		撮影・編集・MAのチェックおよび、修正		
19	最終仕上げ		撮影・編集・MA 最終的な仕上げ		
20	作品上映会		講師および、外部ゲストを招いての講評会		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			・卒業制作としての映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。 ・完成した作品を上映し、内部だけでなく外部評価を受ける事。		
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	映像舞台制作実習				
担当教員	広川一義		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	114時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 19日×6コマ 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	前期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画立案		どんな作品を作るか（テーマ・ジャンル・内容など）		
2	企画立案		どんな作品を作るか（テーマ・ジャンル・内容など）		
3	企画立案		どんな作品を作るか（テーマ・ジャンル・内容など）		
4	企画立案		どんな作品を作るか（テーマ・ジャンル・内容など）		
5	制作準備		画コンテの作成など		
6	制作準備		画コンテの作成など		
7	制作準備		機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等		
8	制作準備		機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等		
9	制作準備		機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等		
10	制作準備		機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等		
11	制作		撮影・編集・MA		
12	制作		撮影・編集・MA		
13	制作		撮影・編集・MA		
14	制作		撮影・編集・MA		
15	制作		撮影・編集・MA		
16	制作		撮影・編集・MA		
17	制作		撮影・編集・MA		
18	制作		撮影・編集・MA		
19	作品上映会		評価		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%			観客を入れての上映会になります。授業の一環というよりプロ意識を持って臨んで下さい。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

科目名		映像舞台制作実習					
担当教員		広川一義		実務授業の有無		○	
対象学科		テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	2	開講時期	前期	
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	84時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 14日×6コマ 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施					
学習目標 (到達目標)		前期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会					
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	企画立案			どんな作品を作るか（テーマ・ジャンル・内容など）			
2	企画立案			どんな作品を作るか（テーマ・ジャンル・内容など）			
3	制作準備			画コンテの作成など			
4	制作準備			画コンテの作成など			
5	制作準備			機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等			
6	制作準備			機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等			
7	制作			撮影・編集・MA			
8	制作			撮影・編集・MA			
9	制作			撮影・編集・MA			
10	制作			撮影・編集・MA			
11	制作			撮影・編集・MA			
12	制作			撮影・編集・MA			
13	制作			撮影・編集・MA			
14	作品上映会			評価			
評価方法・成績評価基準				履修上の注意			
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				観客を入れての上映会になります。授業の一環というよりプロ意識を持って臨んで下さい。			
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる					

②

科目名	異文化研究				
担当教員	安川嘉文		実務授業の有無	×	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	38時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 19×2コマ 2. 提携大学：台南芸術大学での授業受講 3. （台湾）海外の文化・流行・生活を体験することで異文化を学ぶ				
学習目標 （到達目標）	海外の映像・アニメなどの知識習得				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	資料など配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	異文化研修について		異文化研修についてのイントロダクション		
2	台湾講座 1		台湾基礎知識（民族・言語・国土面積・通貨・気候等）		
3	台湾講座 2		台湾基礎知識（芸能・文化・慣習・教育等）		
4	台湾講座 3		現地旅行会社のガイドとスカイプで中国語講座		
5	異文化芸術鑑賞		台湾制作、または台湾を題材、テーマにしたテレビ番組を鑑賞		
6	海外研修旅行準備		海外渡航における注意点・準備物について		
7	海外研修旅行準備		自由行動計画を立てる		
8	海外研修旅行準備		自由行動計画を立てる提出・現地課題の配布		
9	海外研修旅行準備		海外研修旅行説明会（持ち物・服装・行程などの最終ガイダンス）		
10	台湾：異文化研修				
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			観客を入れての上映会になります。授業の一環というよりプロ意識を持って臨んで下さい。		
実務経験教員の経歴		芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴 6 年、海外研修担当4年			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	テレビ番組制作				
担当教員	渡邊 一久		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. テレビ業界の常識を知る。 2. 発想力を鍛える 3. テレビ番組の企画から、制作までの一連の流れを知る。				
学習目標 (到達目標)	①テレビ制作を学ぶうえでの心構えと、映像を学ぶうえで必要な基礎知識、スキルを身につける。 ②グループワークを通して、積極的なコミュニケーションを取れる人材を育成する				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	テレビ業界研究Ⅰ		テレビ業界での必要な心構え、専門用語等の基礎知識を学ぶ		
2	テレビ業界研究Ⅱ		実際のテレビ制作の現場を見学する		
3	テレビ番組研究		テレビ番組の種類、現在のトレンドを研究する		
4	企画		いままでに無いテレビ番組を考え、企画書にまとめる		
5	企画Ⅱ		企画にまとめた内容をプレゼンテーションする。		
6	企画Ⅲ		プレゼンテーションした内容で学内コンペを行う。		
7	企画Ⅳ		コンペの内容をブラッシュアップする		
8	番組台本制作Ⅰ		企画内容にそった台本の制作を行う		
9	番組台本制作Ⅱ		企画内容にそった台本の制作を行う		
10	番組台本制作Ⅲ		企画内容にそった台本の制作を行う		
11	制作実習Ⅰ		台本の内容から、撮影場所、キャスト、予算等を決める		
12	制作実習Ⅱ		撮影場所、キャスト、予算等の調整、交渉、許可取りを行う		
13	制作実習Ⅲ		撮影スケジュールを決める		
14	撮影実習Ⅰ		台本にそった撮影を行う		
15	撮影実習Ⅱ		台本にそった撮影を行う		
16	編集実習Ⅰ		撮影した素材を編集し、仕上げを行う		
17	編集実習Ⅱ		撮影した素材を編集し、仕上げを行う（プレビューも行う）		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
企画内容60%、実技試験20%、出席率20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			いかに柔軟な発想が出来るか、諦めずに実習に取り組む事。グループワーク一丸となりより面白い作品が出来るよう切磋琢磨する事。 全ての実習項目に出席し、完成まで責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴		新潟・東京にてテレビ番組制作に30年以上携わっている。			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	メイク				
担当教員	阿部 久美子		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. メイク道具の扱い方、種類、名前を覚える 2. 演出に応じたビューティーメイクが出来るようになる。 3. 演出に応じた特殊メイク、舞台メイクが出来るようになる。				
学習目標 (到達目標)	学生自身でメイクが出来、それを活かして作品制作が出来る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	メイク基礎実習Ⅰ		メイク道具の名前、使用方法を学ぶ		
2	メイク基礎実習Ⅱ		自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる		
3	ビューティーメイク演習Ⅰ		イメージ画を元に、二人一組になりメイクを行う。		
4	ビューティーメイク演習Ⅱ		イメージ画を元に、二人一組になりメイクを行う。		
5	傷メイク実習		二人一組になり、傷メイクを行う		
6	メイク基礎実習Ⅲ		自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる。		
7	特殊メイク実習Ⅰ		イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。		
8	特殊メイク実習Ⅱ		イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。		
9	特殊メイク実習Ⅲ		イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。		
10	メイク基礎実習Ⅳ		自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる		
11	舞台メイク実習Ⅰ		それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。		
12	舞台メイク実習Ⅱ		それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。		
13	舞台メイク実習Ⅲ		それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。		
14	メイク撮影実習Ⅰ		短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。		
15	メイク撮影実習Ⅱ		短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。		
16	メイク撮影実習Ⅲ		短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。		
17	メイク撮影実習Ⅳ		短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験35%、短編映像制作35%、出席率30%			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ全てのメイクを完成させること。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴		Hollywoodで特殊メイクを学び、ミュージックビデオや映画の特殊メイクを担当			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	メイク				
担当教員	阿部 久美子		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. メイク道具の扱い方、種類、名前を覚える 2. 演出に応じたビューティーメイクが出来るようになる。 3. 演出に応じた特殊メイク、舞台メイクが出来るようになる。				
学習目標 (到達目標)	学生自身でメイクが出来、それを活かして作品制作が出来る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	メイク基礎実習Ⅰ		メイク道具の名前、使用方法を学ぶ		
2	メイク基礎実習Ⅱ		自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる		
3	ビューティーメイク演習Ⅰ		イメージ画を元に、二人一組になりメイクを行う。		
4	ビューティーメイク演習Ⅱ		イメージ画を元に、二人一組になりメイクを行う。		
5	傷メイク実習		二人一組になり、傷メイクを行う		
6	メイク基礎実習Ⅲ		自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる。		
7	特殊メイク実習Ⅰ		イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。		
8	特殊メイク実習Ⅱ		イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。		
9	特殊メイク実習Ⅲ		イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。		
10	メイク基礎実習Ⅳ		自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる		
11	舞台メイク実習Ⅰ		それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。		
12	舞台メイク実習Ⅱ		それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。		
13	舞台メイク実習Ⅲ		それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。		
14	メイク撮影実習Ⅰ		短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。		
15	メイク撮影実習Ⅱ		短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。		
16	メイク撮影実習Ⅲ		短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。		
17	メイク撮影実習Ⅳ		短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験35%、短編映像制作35%、出席率30%			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ全てのメイクを完成させること。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴		Hollywoodで特殊メイクを学び、ミュージックビデオや映画の特殊メイクを担当			

②

科目名	就職指導（専門職）				
担当教員	広川一義		実務授業の有無	×	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	17時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1．就職活動を行う為の動機づけ 2．就職活動の進め方（スケジュール、履歴書の書き方等） 3．個別面談				
学習目標 （到達目標）	求職希望者全員内定				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	就職指導Ⅰ		就職活動を行う為の動機づけ		
2	個別面談		各学生の進路希望、悩みの洗い出し		
3	就職指導Ⅱ		就職活動の進め方、履歴書の書き方指導		
4	個別面談		企業選定を行わせ、進路指導および修正を行う		
5	就職指導Ⅲ		面接指導		
6	個別面談（以下状況を見ながら個別対応）		履歴書チェック、模擬面接、進路指導（随時）		
7	業界説明、企業説明会（企業のタイミングで随時）		学内企業説明会を行い、企業理解を深める		
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17		↓		↓	
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
履歴書提出30%、企業訪問レポート提出20%、模擬面接20%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			就職活動を行うにあたり、報告・連絡・相談を必ず行う。		
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

科目名		ビジネス著作権				
担当教員		朝倉 隆司		実務授業の有無	×	
対象学科		テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数	17時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 著作権の基本的知識習得を行う。 2. 前期、教科書中心に授業を行い、後期は問題集で知識習得の確認を繰り返す。 3. 実際の判決例などを取り入れ、より著作権が身近なものである工夫を行う。				
学習目標 (到達目標)		1. 著作権の基本的知識が理解出来る。2. ビジネス著作権BASIC合格を目指す。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		ビジネス著作権検定公式テキスト（ウイネット） ビジネス著作権検定初級問題集（サーティファイ）				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	著作権とは何か			イントロダクション・著作権の性質・著作権法の目的		
2	著作権で保護されるもの			著作物の定期・著作物該当性に関するその他の問題点 著作物の例示・特別な著作物 教科書P1～P19		
3	著作権は誰が持つ			著作者の定義・著作者の例外・著作者と著作権者 教科書P23～29		
4	著作権の内容 1			著作権の内容・著作者人格権・公表権・氏名表示権・同一性保持権・一身専属性 教科書 P31～P41		
5	著作権の内容 2			財産権の内容・複製権・上演権及び演奏権、上映権・公衆送信権・貸与権、譲渡権、二次 的著作権 教科書P43～P59		
6	著作権は誰が持ついつまで保護される			著作権の始期・著作権の保護期間・国際的保護 教科書P63～P69		
7	他人の著作物は勝手に使えない			著作権の譲渡・利用許諾・契約 教科書P73～P77		
8	勝手に使える場合がある			権利制限規定・私的使用・不随的著作物・教育・図書・非営利無償の上演、演奏・引用転 載 教科書P83～P101		
9	著作物を伝達する者を保護する制度			著作隣接権（実演家）（レコード製作者）（放送事業者・有線放送事業者）・隣接権保護 期間 教科書P117～P129		
10	勝手に使うとどうなるか			著作権の侵害・みなし侵害・著作権侵害罪・民事的対策 教科書P133～P145		
11	著作権に関する関連制度			知的財産権制度・情報モラルと著作権 教科書P149～P155		
12	産業財産権とは			特許権・実用新案権・意匠権・商標権 プリント配布		
13	ビジネスと法・著作物に関する基礎知識・著作者とは			問題集P8～P17 確認テストおよび解答・解説		
14	著作者の権利・著作隣接権・著作権を無断で利用できる例外			問題集P18～P32 確認テストおよび解答・解説		
15	著作権の変動・著作権の侵害と権利救済・著作権法とその周辺			問題集P33～P40 確認テストおよび解答・解説		
16	模擬試験（過去問題より重要部分を出題）			答え合わせおよび解説		
17	ビジネス著作権BASIC検定試験			直前に模擬テストおよび解説あり。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト合計点20%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。				出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を 目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となる ので、しっかりと理解に努めること。		
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	CM制作				
担当教員	浅野 司久		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 発想したものを、企画書にまとめる 3. 企画書にまとめたものを映像にしてみる				
学習目標 (到達目標)	多くの人に見てもらえる映像を企画し、形に出来る。CMの企画から制作、納品方法まで出来るようになる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	発想トレーニング		1つのキーワードからどれだけ連想出来るかをトレーニングする		
2	映像研究		CMの種類、トレンドを研究する		
3	企画		1つのテーマを決め、内容にそった企画内容を考えプレゼンテーションを行う		
4	企画Ⅱ		プレゼンテーションした内容の修正、および新案の提案を行う		
5	企画Ⅲ		プレゼンテーションした内容の修正、および新案の提案を行う		
6	企画Ⅳ		プレゼンテーションした内容の修正、および新案の提案を行う		
7	絵コンテ制作実習Ⅰ		企画内容にそった絵コンテ制作（絵コンテの書き方基礎）		
8	絵コンテ制作実習Ⅱ		企画内容にそった絵コンテ制作Ⅱ		
9	絵コンテ制作実習Ⅲ		企画内容にそった絵コンテ制作Ⅲ		
10	制作実習Ⅰ		企画内容から、撮影場所、キャスト、予算等を決める		
11	制作実習Ⅱ		撮影場所、キャスト、予算等の調整、交渉、許可取りを行う		
12	制作実習Ⅲ		撮影スケジュールを決める		
13	撮影実習Ⅰ		企画にそった撮影を行う		
14	撮影実習Ⅱ		企画にそった撮影を行う		
15	編集実習Ⅰ		撮影した素材を編集し、仕上げを行う		
16	編集実習Ⅱ		撮影した素材を編集し、仕上げを行う		
17	編集実習Ⅲ		編集したものを納品出来る形態にする。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
企画内容35%、実技試験35%、出席率30%			個人制作ではなく、グループワークとして実習に臨む。人の好き嫌いでは無く、仕事として積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、完成まで責任を持って参加する事。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	東京・新潟などのテレビCMを多数制作。ディレクターとして35年以上の経歴を持つ				

科目名		映像演出（基礎）演習					
担当教員		広川一義		実務授業の有無		○	
対象学科		テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期	
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	51時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 学生自身が自由な発想で演出が出来る 3. 演出したものを形にしてみる					
学習目標 （到達目標）		映像演出の概念、シナリオからテーマ・登場人物の関係を理解し、表現方法のアレンジ、強調・演出の付け方・説明的な表現の排除等を実践出来る。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	企画・演出Ⅰ			班編成→企画提出→プレゼンテーション後、一次選考			
2	企画・演出Ⅱ			撮影（スチール）作品決定、企画内容修正			
3	企画・演出Ⅲ			撮影スケジュール案を提出			
4	企画・演出Ⅳ			予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定			
5	企画・演出Ⅴ			撮影準備開始			
6	企画・演出Ⅵ			撮影完了			
7	映像演出（基礎）演習Ⅰ			企画内容選定（舞台制作）			
8	映像演出（基礎）演習Ⅱ			企画内容修正・制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備			
9	映像演出（基礎）演習Ⅲ			制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備			
10	映像演出（基礎）演習Ⅳ			美術・衣装・小道具打ち合わせ			
11	映像演出（基礎）演習Ⅴ			撮影スケジュールの最終決定、リハーサル			
12	映像演出（基礎）演習Ⅵ			企画を元にした映像制作もしくは舞台制作準備			
13	映像演出（基礎）演習Ⅶ			照明、美術、音響打ち合わせ			
14	映像演出（基礎）演習Ⅷ			舞台制作準備			
15	映像演出（基礎）演習Ⅸ			舞台制作準備			
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ			舞台制作準備			
17	講評会			作品発表会			
評価方法・成績評価基準				履修上の注意			
スチール提出35%、映像・舞台制作35%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。			
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる					

科目名	映像演出（基礎）演習				
担当教員	広川一義		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 学生自身が自由な発想で演出が出来る 3. 演出したものを形にしてみる				
学習目標 （到達目標）	映像演出の概念、シナリオからテーマ・登場人物の関係を理解し、表現方法のアレンジ、強調・演出の付け方・説明的な表現の排除等を実践出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画・演出Ⅰ		班編成→企画提出→プレゼンテーション後、一次選考		
2	企画・演出Ⅱ		撮影（スチール）作品決定、企画内容修正		
3	企画・演出Ⅲ		撮影スケジュール案を提出		
4	企画・演出Ⅳ		予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定		
5	企画・演出Ⅴ		撮影準備開始		
6	企画・演出Ⅵ		撮影完了		
7	映像演出（基礎）演習Ⅰ		企画内容選定（舞台制作）		
8	映像演出（基礎）演習Ⅱ		企画内容修正・制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
9	映像演出（基礎）演習Ⅲ		制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
10	映像演出（基礎）演習Ⅳ		美術・衣装・小道具打ち合わせ		
11	映像演出（基礎）演習Ⅴ		撮影スケジュールの最終決定、リハーサル		
12	映像演出（基礎）演習Ⅵ		企画を元にした映像制作もしくは舞台制作準備		
13	映像演出（基礎）演習Ⅶ		照明、美術、音響打ち合わせ		
14	映像演出（基礎）演習Ⅷ		舞台制作準備		
15	映像演出（基礎）演習Ⅸ		舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ		舞台制作準備		
17	講評会		作品発表会		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
スチール提出35%、映像・舞台制作35%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

科目名	映像・声優・俳優専攻ゼミ				
担当教員	広川一義（コーディネーター）	実務授業の有無	○		
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	29時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 5日×6コマ（初回授業のみ7コマ） 2. 特別講師を招いての授業およびワークショップ 3. 現場で活躍する著名な方の授業を受けることでのモチベーション向上および最新知識の習得 4. 新潟だけでなく東京などでの研修も含む				
学習目標 （到達目標）	一流のプロフェッショナルから学ぶことで職業に対する意欲および意識の向上				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	特別講師プロフィールおよびテキストプリントの配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	特別講師によるワークショップ		テレビプロデューサー・ディレクターなど		
2	特別講師によるワークショップ		テレビプロデューサー・ディレクターなど		
3	特別講師によるワークショップ		テレビプロデューサー・ディレクターなど		
4	特別講師によるワークショップ		テレビプロデューサー・ディレクターなど		
5	特別講師によるワークショップ		テレビプロデューサー・ディレクターなど		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
レポート提出80%、授業態度および意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			講師はその都度、状況によって変わります。来校が決まり次第お知らせします。また、授業終わりにレポートの提出があります。		
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	映像・声優・俳優専攻ゼミ				
担当教員	広川一義（コーディネーター）		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	29時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 5日×6コマ（初回授業のみ7コマ） 2. 特別講師を招いての授業およびワークショップ 3. 現場で活躍する著名な方の授業を受けることでのモチベーション向上および最新知識の習得 4. 新潟だけでなく東京などでの研修も含む				
学習目標 （到達目標）	一流のプロフェッショナルから学ぶことで職業に対する意欲および意識の向上				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	特別講師プロフィールおよびテキストプリントの配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	特別講師によるワークショップ		テレビプロデューサー・ディレクターなど		
2	特別講師によるワークショップ		テレビプロデューサー・ディレクターなど		
3	特別講師によるワークショップ		テレビプロデューサー・ディレクターなど		
4	特別講師によるワークショップ		テレビプロデューサー・ディレクターなど		
5	特別講師によるワークショップ		テレビプロデューサー・ディレクターなど		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
レポート提出80%、授業態度および意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			講師はその都度、状況によって変わります。来校が決まり次第お知らせします。また、授業終わりにレポートの提出があります。		
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	ステージマネジメント				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 舞台演劇・ステージイベントの仕組みを理解する 2. 本番に必要な準備と流れを理解する 3. イベント進行時の安全について深く理解する				
学習目標 (到達目標)	本番時の観客とステージ側の進行の責任者であるとともに、安全面の責任者であることも理解する				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	実際に使われた公演資料のコピーを配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	舞台イベントの種類		演劇・音楽劇・コンサートなど		
2	舞台イベントでの進行係		必要な知識について		
3	舞台監督の存在		ステージマネージャーについて		
4	演目によるルール 1		現場や内容によってルールが違う場合がある		
5	演目によるルール 2		舞台上の道具の扱いや楽器などについて		
6	演目によるルール 3		スタッフ間による情報の共有		
7	イベント進行 1		演目のスムーズな進行		
8	イベント進行 2		劇場内通路確保について		
9	進行について まとめ		まとめ		
10	ステージマネジメントについて		安全のためのスムーズな進行係		
11	演劇の舞台進行について 1		出演者の楽屋と舞台袖		
12	演劇の舞台進行について 2		客席の配置と非常時の誘導		
13	演劇の舞台進行について 3		演技スペースの確保		
14	演劇の舞台進行について 4		ステージ進行表 1		
15	演劇の舞台進行について 5		ステージ進行表 2		
16	演劇の舞台進行について 6		ステージ進行表 3		
17	演劇の舞台進行について 7		まとめ		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			出来ることとそうでないことに対する判断力が大切な仕事です。 演出の言いなりにならず、役者・観客・スタッフの安全な環境を どう作り上げるかが、スムーズな進行に繋がるという考えを大切に してください。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		音響・音声基礎			
担当教員		株式会社サウンドエイト 佐久間 敦貴		実務授業の有無	○
対象学科		テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	1	開講時期 前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数 34時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 音響機材の使用手法、名前を覚える 2. 各種ケーブルの取り扱い、取り回しを学ぶ 3. 録音機材を使用し、収録した音声を整音する			
学習目標 (到達目標)		音の性質を理解し、扱えるようになる。			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	音響基礎実習Ⅰ			映像制作における音の役割、録音のやり方を学ぶ	
2	音響基礎実習Ⅱ			音との性質、録音技法、マイクの仕組み方法、ケーブルの種類、扱い方法を学ぶ	
3	音響基礎実習Ⅲ			録音機材の準備方法、撤収方法	
4	音響基礎実習Ⅳ			ブームの使用手法、レコーディング、ミキシング方法を学ぶ	
5	音響基礎実習Ⅴ			スタジオ録音実習	
6	音響基礎実習Ⅵ			アフレコ録音実習	
7	音響基礎実習Ⅶ			アフレコ録音実習	
8	音響基礎実習Ⅷ			効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）	
9	音響基礎実習Ⅸ			効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）	
10	音響基礎実習Ⅹ			整音実習（アフレコ素材の整音）	
11	音響基礎実習Ⅺ			整音実習（アフレコ素材の整音）	
12	音響基礎実習Ⅻ			整音実習（アフレコ素材の整音）	
13	音響仕上げ実習Ⅰ			ミックスダウンを行ってみる。	
14	音響仕上げ実習Ⅱ			ミックスダウンを行ってみる。	
15	音響効果研究Ⅰ			アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する	
16	音響効果研究Ⅱ			アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する	
17	音響効果研究Ⅲ			アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。	
実務経験教員の経歴		新潟市の音響、照明の会社イベントをはじめ、舞台等、照明と音響を手がける			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		音響・音声基礎				
担当教員		株式会社サウンドエイト 佐久間 敦貴		実務授業の有無	○	
対象学科		テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	51時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 様々な演出に応じた音の効果を学ぶ 2. 録音機材を使用し、収録を行う 3. 収録した音声を整音する				
学習目標 (到達目標)		録音部として映像作りに関わり、各部署と連携して短編映像を完成させる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	音響基礎知識Ⅰ			ENG、マルチトラック録音、ワイヤレスマイクの取り扱い。電波法を理解する。		
2	音響基礎知識Ⅱ			マルチトラック録音実践		
3	音響基礎知識Ⅲ			ENG収録実践		
4	効果音実習Ⅰ			アニメーションを使用し、アフレコ、効果音等付けてみる。		
5	効果音実習Ⅱ			アニメーションを使用し、アフレコ、効果音等付けてみる。		
6	効果音実習Ⅲ			アニメーションを使用し、アフレコ、効果音等付けてみる。		
7	録音実習Ⅰ			シナリオから短編映像制作を行う		
8	録音実習Ⅱ			シナリオを基に録音機材の機材のセッティング方法、機材の選定、操作方法の確認を行う。		
9	録音実践Ⅰ			短編映像制作		
10	録音実践Ⅱ			編集と同時に音素材収集、整音作業、監督との音設計・BGM等の打ち合わせを行う		
11	録音実践Ⅲ			編集と同時に音素材収集、整音作業、監督との音設計・BGM等の打ち合わせを行う		
12	録音実践Ⅳ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う		
13	録音実践Ⅴ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う		
14	録音実践Ⅵ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う		
15	録音実践Ⅶ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う		
16	PA実習			音響機材を使用し、マイクや操作卓のセッティング方法などを学ぶ。		
17	総評			総評		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた映像作品を完成させること。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴		新潟市の音響、照明の会社イベントをはじめ、舞台等、照明と音響を手がける				

科目名	社会人常識マナー検定				
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	×	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 社会人、組織の一員として必要不可欠な社会常識を理解する。 2. 人として必要な知識やビジネスマナーを修得する。 3. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を修得する。				
学習目標 (到達目標)	1.社会常識を理解する。2.ビジネス計算力を身につける。3.立居振舞い、言葉遣いなどを身につける。4.ビジネスマナーの基礎を理解する。5.社会人常識マナー検定3級合格を目指す。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト2・3級 公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定第21回～第28回過去問題集3級				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	社会人常識マナー検定試験について 社会と組織1		社会人としての自覚やキャリア、会社組織について。テキストP1～20		
2	社会と組織2		組織と役割、社会変化とその対応。テキストP22～32		
3	仕事と組織		目標の重要性、主体性と組織運営。テキストP34～54		
4	一般常識1		社会常識の基礎用語。漢字など。テキストP56～70		
5	一般常識2		社会常識の基礎用語。用語など。テキストP70～86		
6	ビジネスコミュニケーション 言葉遣い		人間関係とコミュニケーション。敬語と話し方。テキストP102～144		
7	ビジネス文書		ビジネス文書の特徴。社内文書。テキストP146～156		
8	ビジネスマナー		組織の一員としてのマナー。来客応対。テキストP176～196		
9	定期試験		テストと解説。		
10	電話対応		電話対応の重要性。電話の受け方、掛け方の心得。テキストP202～214		
11	交際業務		慶事・弔辞のマナー。テキストP128～238		
12	文書類の受け取りと発送		受発信文書の取り扱い。オフィス環境。テキストP242～249		
13	計算		ビジネスにおける計算。数式。テキストP90～99		
14	日本		都道県名・県庁所在地・各県の特色など。		
15	検定対策①		過去問題の解説、確認。		
16	検定対策②		過去問題の解説、確認。		
17	検定対策③		過去問題の解説、確認。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			社会人として必要なマナーや知識を修得。検定合格は勿論のこと、社会への意識を高めさせたい。		
実務経験教員の経歴		専門学校教員として19年間、学生の育成に従事。			

科目名	演技・映像業界研究				
担当教員	広川一義（コーディネーター）	実務授業の有無	○		
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	30時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 5日×6コマ 2. 特別講師を招いての授業およびワークショップ 3. 現場で活躍する著名な方の授業を受けることでのモチベーション向上および最新知識の習得 4. 新潟だけでなく東京などでの研修も含む				
学習目標 (到達目標)	一流のプロフェッショナルから学ぶことで職業に対する意欲および意識の向上				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	特別講師プロフィールおよびテキストプリントの配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	特別講師によるワークショップ		テレビプロデューサー・ディレクターなど		
2	特別講師によるワークショップ		テレビプロデューサー・ディレクターなど		
3	特別講師によるワークショップ		テレビプロデューサー・ディレクターなど		
4	特別講師によるワークショップ		テレビプロデューサー・ディレクターなど		
5	特別講師によるワークショップ		テレビプロデューサー・ディレクターなど		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
レポート提出80%、授業態度および意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			講師はその都度、状況によって変わります。来校が決まり次第お知らせします。また、授業終わりにレポートの提出があります。		
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		演技・映像業界研究				
担当教員		広川一義（コーディネーター）		実務授業の有無	○	
対象学科		テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数	45時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 7日×6コマ+3コマ 2. 特別講師を招いての授業およびワークショップ 3. 現場で活躍する著名な方の授業を受けることでのモチベーション向上および最新知識の習得 4. 新潟だけでなく東京などでの研修も含む				
学習目標 (到達目標)		一流のプロフェッショナルから学ぶことで職業に対する意欲および意識の向上				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		特別講師プロフィールおよびテキストプリントの配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	特別講師によるワークショップ			テレビプロデューサー・ディレクターなど		
2	特別講師によるワークショップ			テレビプロデューサー・ディレクターなど		
3	特別講師によるワークショップ			テレビプロデューサー・ディレクターなど		
4	特別講師によるワークショップ			テレビプロデューサー・ディレクターなど		
5	特別講師によるワークショップ			テレビプロデューサー・ディレクターなど		
6	特別講師によるワークショップ			テレビプロデューサー・ディレクターなど		
7	特別講師によるワークショップ			テレビプロデューサー・ディレクターなど		
8	特別講師によるワークショップ			テレビプロデューサー・ディレクターなど		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
レポート提出80%、授業態度および意欲20%				講師はその都度、状況によって変わります。来校が決まり次第お知らせします。また、授業終わりにレポートの提出があります。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	実践行動学				
担当教員	朝倉隆司		実務授業の有無	×	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	18時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 前期1回、後期2回実施 2. 人間力（自主性・プラス思考・実行力など）の育成 3. Part 1～Part 3 を毎回グループに分かれて実施				
学習目標 (到達目標)	将来に対する目標設定・プラス思考・働くことへのモチベーション向上				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	実践行動学テキスト配布 実践行動学研究所				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Part 1 マジックドア 1		夢と目標 P 1～P 7		
2	Part 1 マジックドア 2		誤った思い込みと言ひ訳 P 8～P 1 3		
3	Part 1 マジックドア 3		行動のよりどころと心構え P 1 4～P 2 2		
4	Part 1 マジックドア 4		まず第 1 歩を P 2 3～P 3 2		
5	Part 1 マジックドア 5		目標設定しよう P 3 3～P38		
6	Step Up Sheet		目標設定達成の振り返り P 3 9～P4 2		
7	Part 2 マジックドア 1		プラス思考が自分の能力・可能性を大きく広げる P 1～P4		
8	Part 2 マジックドア 2		考え方を変えれば行動が変わる P 5～P 1 1		
9	Part 2 マジックドア 3		あなたの問題は、あなたが解決できる P 1 2～P 1 9		
10	Part 2 マジックドア 4		あなたのコミュニケーションスタイルを見直そう P 2 0～P 2 7		
11	Part 2 マジックドア 5		目標が才能・可能性を開花させる P 2 8～P 3 2		
12	Step Up Sheet		目標設定達成の振り返り P 3 4～P 3 6		
13	Part 3 マジックドア 1		入学から今日までの成長を実感しよう P 1～P 4		
14	Part 3 マジックドア 2		働く自分をイメージしてみよう P 5～P 1 0		
15	Part 3 マジックドア 3		自分が最大限に生きる働き方とは P 1 1～P 1 5		
16	Part 3 マジックドア 4		将来を描いてみよう P 1 6～P 2 0		
17	Part 3 マジックドア 5		夢実現への第一歩を踏み出そう P 2 1～P24		
18	Step Up Sheet		夢実現整理・行動計画の振り返り P 2 5～P 2 8		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
積極的取り組み40%、発表内容30%、リーダーシップ30%、 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。			講師はあくまでも授業の進行役（ファシリテーター）でしかありません。ファシリテーターの指示に従い、グループで授業を進めて下さい。		
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に 7 年、専門学校にて23年の指導、実践行動学ファシリテーター資格有			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	総合イベント演習				
担当教員	広川一義		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	36時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 映像・舞台・コンサート観賞を通じて芸術への関心を高める。 2. 映画祭やイベントに参加することでの人脈作りを図る。				
学習目標 (到達目標)	エンターテインメント業界への関心を高めることで更なる造詣を深める。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	作品に対する詳細な資料など（プリント）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	映画鑑賞		60年代の映画×3本（レポート提出）		
2	映画鑑賞		70年代の映画×3本（レポート提出）		
3	映画鑑賞		80年代以降の映画×3本（レポート提出）		
4	映画祭・各イベント参加		映画祭・放送局主催のイベントサポート（レポート提出）		
5	映画祭・各イベント参加		映画祭・放送局主催のイベントサポート（レポート提出）		
6	映画祭・各イベント参加		映画祭・放送局主催のイベントサポート（レポート提出）		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
レポート評価60%、作品鑑賞数30%、学習意欲10%			授業外で作品鑑賞した場合、レポート提出で加点評価します。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	総合イベント演習				
担当教員	広川一義		実務授業の有無	○	
対象学科	テレビ制作科 テレビ制作コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	36時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 映像・舞台・コンサート観賞を通じて芸術への関心を高める。 2. 映画祭やイベントに参加することでの人脈作りを図る。				
学習目標 (到達目標)	エンターテインメント業界への関心を高めることで更なる造詣を深める。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	作品に対する詳細な資料など（プリント）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	映画鑑賞		60年代の映画×3本（レポート提出）		
2	映画鑑賞		70年代の映画×3本（レポート提出）		
3	映画鑑賞		80年代以降の映画×3本（レポート提出）		
4	映画祭・各イベント参加		映画祭・放送局主催のイベントサポート（レポート提出）		
5	映画祭・各イベント参加		映画祭・放送局主催のイベントサポート（レポート提出）		
6	映画祭・各イベント参加		映画祭・放送局主催のイベントサポート（レポート提出）		
	</				